

日本記者クラブ会報

第436号
2006年
(平成18年)
6月10日発行

〒100-0001
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル
© 社団法人 日本記者クラブ
http://www.jnpc.or.jp

アナン事務総長6度目の登場

初の生え抜き事務総長・アナン氏
(1997・1・1就任)の2期目
の任期が年末で終了する。
先月行われたクラブでの6度目の
会見(5・18)は、いわば東京での
お別れ会見といってもいいだろう。
半ば肩の荷を下ろしつつあるといっ
たところからくる余裕、安堵、だか
らこそと思われる「直言」も。
贅肉のない均整のとれたしまった
肢体と哲人風のマスクと眼光は、古

典劇の男優のようだ。左手をズボン
のポケットに隠れたお得意の立ち姿
で、次々と質問に答えた。異例だな
と思った発言もあった。

最初に司会の金平茂紀理事(TB
S)が、日本の安保理常任理事国入
りの障害について質した。小泉首相
の靖国参拝への中韓の反発が、これ
にどう影響していると思うか、と。
事務総長の答えは率直だった。安
保理入りの障害になっているだけ
なく、緊張関係を増

してしまったので、
何らかのジェスチャ
ーが必要になってい
るとした。新華社記
者の関連質問への答
えでは「障害は放つ
ていて自然になくな
るものでないので、
大胆かつ寛大なジェ



写真=栗田格会員 (1階ホールで)

スチャーをとるべきだ」と。

さらにロイター記者のフォローア
ップには以下のように、「域内の国々
はお互いのことをよく分かっている
し、歴史も共有しているのです、どう
いう心配や懸念が相手を挑発してし
まうかも認識できている。自身で状
況を評価して、どういうことを変え
ていかなくはないかを考えて
いただきたい。そして関係をよりス
ムーズなものにしてほしい」。

東京へ来る前のソウルでの盧武鉉
大統領会談の影響とみるか、この問
題の国際的な関心度の大きさとみる
か。これ以外の別の見方もあるかも
しれないが、ちよつと子ども扱いさ
れている感じがして、事務総長の言
葉に「はてな？」と思ってしまうた。

森前首相昼食会に

191人が集まる

安倍さん、福田さんという二人の
有力候補を抱える自民党最大派閥の
会長の心中は、単純にうれしい悲鳴

とはいかない。そこが政界の政界た
る所以かもしれない。

森前首相昼食会(5・22)は、最
初、4月25日で案内した。が、その
日に国会で「水俣病公式確認50年決
議」採択が行われることになったた
め仕切り直しに。もともと3月に日
口賢人会議の日本側座長として訪口
したので、その報告をとお願ひし、
承諾していただいたもの。それで、
スピーチは資源・エネルギーの重要
性という観点から、このお話をたっ
ぷり。森さんの父上とイルクーツク
との関係からひもといた。

しかし、質疑応答ではポスト小泉
をめぐる政局についても、だんだん
に快く応じてくれた。小泉さんの靖
国参拝についても「心の問題だとい
っているんですね。心の問題だった
ら政治の問題にはいけない」と
明快だった。

異例の宰相・小泉さんには「政権末
期」は無縁かもしれないと思ってい
たが、「外交」からそれらしいものが
広がってきた。それでも、首相は8
月15日にこだわるのだろうか。

他方、「変わる」を宣言した民主・小
沢代表の存在感も気になってきたが、
クラブへの登場はお盆明けでの返
事だった。

(専務理事 岩崎玄道)

唐沢 祥人 日本医師会会長

5・10(水)昼食会 司会 三橋清二
理事 飯野奈津子委員 出席 103人

▼信頼される職能集団へ

診療報酬が大幅に引き下げられるなど、小泉改革の最大の被害者でありながら、国民の同情を全く買わないのが日本医師会だ。4月に現職候補を破り、16万会員のトップに立った新会長の会見に聴衆は耳をそばだてた。

まず、自民党との関係について、「政権政党と話し合えない」と、意見を取り上げてもらえない」とした上で、「医師会のしつかりとした医療政策提言を聞くことが、政党にとっても有利だ」という関係を築きたい」と今後の方針を述べた。

実は、今回の会長選に対する世評は芳しくなかった。唐沢会長が昨年



末の診療報酬改定で政治力を発揮できなかった前執行部を批判したこともあり、「政権政

党との距離感」のみが争点となったからだ。言葉通り、質の高い医療政策提言を影響力発揮の唯一の手段とするのか、それとも政治献金や選挙協力に走るのか。旧来型の圧力団体とのイメージを払しょくし、国民に信頼される職能集団たりえるかの分水嶺となりそうだ。

もうひとつ、関心を集めたのが、へき地、産科などの医師偏在の問題だ。唐沢会長は、(1)国民医療にどのような役割を果たすべきなのかを、医学教育で学ばせる(2)医師が少ない分野を経験した場合、将来的に大きな評価が得られるようなシステムを築く(3)女性の医師の活用——の3点を解決策として示した。正論だが、容易ではない。

離島で医療に従事しようという使命感に燃える医師を育てるのは難しい。要は、大きな評価の中身をどうするのかだ。厚生労働省は診療所開業の要件とする案を出したが、つぶれてしまった。国や大病院まかせではなく、医師会こそが自らの問題として会員に問い、具体的な解決策を示すべきだろう。

読売新聞社会保障部 阿部 文彦

井上 雅博 ヤフー代表取締役社長

5・10(水)記者会見 司会 稲田好美
委員 出席 11人

▼ヤフーモデルおそろべし

いまや巨大なメディアである。10周年を迎えたポータルサイト、ヤフーの売上高は1700億円、経常利益800億円。平均年齢30歳の従業員数は3000人に迫る。インターネットの世界で強さのメルクマールになるユーザー数が4100万人、ページビュー(PV)が一日12億を

超える。この急成長の立役者こそ井上雅博社長である。

「これまでの10年」と「これからの10年」と題した井上氏の話



を聞いて、あらためて「ヤフーモデルおそろべし」の感を強くした。過去10年は利用者数の増加とサービスの拡大で急成長したが、「このままでは頑張っても2倍」という井上氏は、「これからの10年は質的变化で成長を加速させる」と戦略を披露した。

キーワードは「ソーシャルメディア」だ。信頼性の高いコミュニケーションインフラの上に、大量の「ユーザー」が発信する情報」が寄り集ま

ることで生まれる新しいメディアを目指すという。利用者が何度も、そしてより長時間ヤフーのサービスを使うことを狙っている。

孫正義氏率いるソフトバンク・グループの稼ぎ頭を預かる井上氏の経営手法は堅実で理詰めた。「インターネットの健全な発展」と「災害時の緊急支援」を目的とする「Yahoo!基金」を5月に創設するなど

すると確信しているからだ。ネットの世界、一寸先は闇だ。ヤフーがニューヨークタイムズを傘下に治めるなんてことが起きるかもしれない。大激変が予想される中、このままでは既存のメディアがヤフーモデルに押しまわられることだけは確かだろう。

日本経済新聞電子メディア局長

吉岡 昇

田中 均 前外務審議官

5・15(月) 研究会「北朝鮮」①⑥
 司会 角南源五委員 出席 155人

▼「外交戦略」の重要性を強調



小泉首相の劇的な02年9月の訪朝に向けて約1年間にわたり

北朝鮮と事前協議を秘密裏に重ねて、一躍、注目を集めた。この訪朝が明らかになったその年の8月30日、ソウル特派員として南北対話の取材中に、小泉訪朝の情報を得て本社に連絡したことを思い出す。

日朝秘密協議は1年間、マスメディアに漏れなかった。それから3年半たつが、依然として北朝鮮側の交渉相手は「ミスターX」としか分からない。「ミスターX」をめぐるさまざまな報道が週刊誌などで取り上げられたが、ずばり言い当てた報道はなかった。当然にこの点に質問が及んだが、外務省退任後も依然として守秘義務があるとした上で「大事なことは、その人が金正日総書記に通じているかどうかだった」と答えた。北朝鮮による拉致、核問題に関し

ては、しばらくは手詰まり状態が続くとの見方を示した上で「(打開には)六カ国協議を動かすことが必要だ。そのためには米朝間で本当に深刻な話し合いが行われるようにすべきだ」と述べた。

小泉首相の靖国神社参拝などをめぐり中韓関係がこじれていることについて「日本は米朝との関係の強さを活用し、主体的役割を果たすべきだ。次期首相も含め、大きな戦略と緻密な戦術を描き、結果をつくる交渉をしなければならぬ」と指摘した。現在の日本外交への不満がにじむ発言だ。注目されている首相の3回目の訪朝については「国交正常化されていない国に、唐突に行つて物事が成るものでない。綿密に準備し、一定の成果が予測されるときしか(首相は)行かない。そうした(日朝)協議が行われているように見えない」と語り、3度目の訪朝には否定的な見方を示した。今の外務省に、日朝首脳会談を裏方で準備できるほどの人物がいるのだろうかと思う。日本外交に欠ける「外交戦略」を何度も強調していたことが印象に残った。

共同通信論説副委員長 安尾芳典

アフマド・アブルゲイト

エジプト外相

5・16(火) 記者会見 司会 脇祐三
 委員 通訳 池田薫 出席 52人

▼イラン核開発に一定の理解

「あらためて日本とエジプトの強い友好関係を確認できた」

カイロ近郊ギザに日本の円借款で「大エジプト博物館」が建設されることなどを挙げながら、良好な2国関係を強調する際に見せた表情には、2代前のアムル・ムーサ氏(現アラブ連盟事務局長)、前任のアフマド・マーヘル氏といった、記者がカイロに駐在した当時のコワモテの外相たちとはひと味違う柔和さがにじんでいて、新鮮さを覚えた。

1942年生まれの63歳。カイロ・アインシャムス大で経済学修士号を取得後、エジプト外務省に入り、イタリヤ大使、外務省筆頭次官、国連大使などを歴任し、2004年7月、外相に就任。



人口では最大のアラブ国家。中東和平やイラク問題など域内の重要課題で、重要な仲介者の役割を背負っていることは、今も昔も変わらない。

イスラム原理主義組織ハマスが主導することになったパレスチナ自治政府への支援に関連した質問に答え、「(米、露、欧州連合、国連からなる)4者協議の枠組みで、メカニズムを検討すべき」と、エジプト単独での直接支援には慎重な姿勢を示したが、「(自治政府職員への)給料不払いなど、パレスチナが非常に悲惨な状況にあることは容認できない」と熱く語り、同胞の窮地打開のための国際社会の広範な支援を訴える一幕もあった。

イランの核開発問題については、「核拡散防止条約(NPT)加盟国であり、原子力平和利用の権利を持つている」とイランの立場に一定の理解を示す一方で、「軍事利用計画を持つことがあってはならない。国連安全保障理事会の場で平和に解決されるのが望ましい」と述べるなど、国内に反米世論を抱えつつ、親米路線を堅持するという、そう単純ではない事情ものぞかせていた。

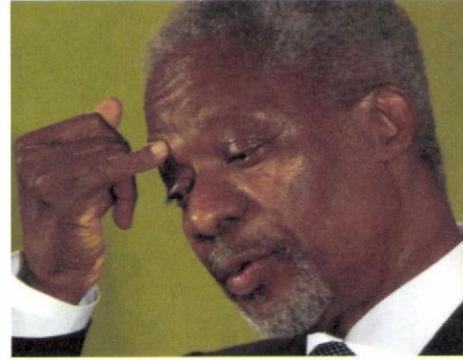
読売新聞国際部 久保 健一

コフィ・アナン 国連事務総長

5・18(木) 記者会見 司会 金平茂紀
理事 通訳 長井鞠子 澄田美都子
出席 13人 写真 栗田格会員

▼日・中韓対立を「緊張」と表現

事務総長として、おそらく最後の日本訪問だろう。計7回の訪日ではほぼ毎回、クラブを記者会見の場を選び、今回が6回目のクラブゲスト。



穏やかで物静かな話し方は、10年前の混乱した事務総長選びで突然、候補者として浮上した時から変わっていない。当時、ニューヨーク勤務だった私は「声も小さいし、なんだかおとなしそうな人だな」と感じたのを覚えている。

1996年11月、ブトルス・ガリ氏の事務総長再選を米国が拒否権行使して阻止した。

世界が驚き、アフリカ諸国が怒る中、クリントン米政権が次期事務総長として白羽の矢を立てたのが事務次長だったアナン氏だ。1カ月後に決着した時、国連本部ビルのだれもが「米国のお気に入り」というイメージを持った。それから10年。9・

11やイラク戦争を経験して、国連の姿は大きく変わった。イラク戦争で

は米国と食い違う立場を示したため「お気に入り」のレッテルも消え、今年末、国連を去る。

会見時間は短かったが、13人ほどの質問に答え、内容は濃い。

「イラク戦争による国連の分裂はまだ癒されていない」「加盟国は安保理決議による正当性を得た上で行動すべきだ」「テロと戦うからといって、移民や外国人に対する規制が行き過ぎると、テロリストに勝利を与える結果になる」

日中・日韓の対立を「テンション(緊張)」と表現し「どのような行動が挑発となるかはわかっていないはずだ」と述べた。小泉首相への苦情だ。

まだ、いいなくてもいいないことを抱えている。退任後はおとなしさを捨て、国連を都合よく利用することしか考えない大国をおおいに批判するだろう。

毎日新聞編集局次長 中井 良則

森 喜朗 前首相

5・22(月) 昼食会 司会 国分俊英理事
川戸恵子委員 出席 19人

▼じらしながら本音もチラリ

話の大半は日中関係や日中関係だった。しかし、10日ほど前の派閥総会で「総裁選候補を一本化するつもりはない」と宣言したばかりとあって、聞く側は当然、自民党総裁選の話を持っていた。しかも、出席者数は191人と多かった。



もちろん、森氏はそんなことは百も承知している。その上で、聴衆をじらしかのように、ロシアのプーチン大統領との個人的関係から最近の日中関係の課題へと話は続いた。さらに、後半は直前の中国訪問と進めた。

政界でも右に出る者がいないほどの「話上手」でもある森氏だが、今回は珍しく紙を用意し、時には国会答弁よろしく読みながらの講演だった。

しかし、そこはサーブिस精神旺盛な森氏らしく、日中関係では「為政者は小さな事も大きく広がることは慎まなければならない。指導者によ

らどうこうするつもりはない。影響力のない政治家になりたい」と応じた。もちろん、誰もそんな言葉を信じるわけもない。総裁選を語るにはまだ時期が早いということだろう。

とはいえ、武部幹事長を「総裁選に向けていろいろやろうとしているが、首相へのこびへつらいだ」と批判したり、「派閥は形を変えてもなくなるならない」などという本音も聞かれた。

ちなみに、会見の夜、森氏は小泉首相と食事をしたことも付け加えておきます。

朝日新聞「論座」編集長

薬師寺克行

足立 信也 民主党参院議員

5・23(火)研究会「社会保障① 医療制度改革(7)」司会 飯野奈津子委員 出席 28人

▼崖っぷち日本の医療は救えるか



今国会での医療制度改革関連法案の与野党の攻防をみていると政府・与党が押され気味

である。具体的には健保法改正案と医療法改正案だが、ポイントは少子高齢化や医療、介護需要の増加から財政的に行き詰まった制度全体の立て直しにある。どうするか。要は患者負担の増加か公費の投入か、医療、介護報酬の合理化か、簡単にいえばそのへんしかあるまい。

民主党は「10年程度かけて諸制度を根本改革する」という。対案としてまず「命の値段は削れない」として「医療の安心・納得・安全法案」を出した。

患者の知る権利や自己決定権、医療事故の原因究明体制がどこまで守られているか。例えば「薬や医療機器の価格にしても国立病院のほとんどは公定価格で買っている。民間病

院の3倍だ」と指摘する。「これは大きな無駄。こうした官民格差、内外格差、国際価格と比べてみれば一目瞭然」と裏の事情を明かす。

足立氏は2年前まで診療現場にいた消化器の外科医。その前は筑波大学の助教授である。論理明快、あれこれ現場体験のトピックも多く、話の内容は硬軟起伏に富む。「国民医療費の政府推計にしても現在32兆円、20年後65兆円はこれまでの実績からして信を置けない」とする。

なぜかといえば「94年の推計値はなんと141兆円。97年は104兆円、00年は81兆円、02年は70兆円、04年は69兆円、05年は65兆円まで落ちてきたからだ」。民主党の推計値は15年30兆円、25年34兆円だそうだ。

二つ目の法案は「がん対策基本法案」だ。遅れをとった自民党が5月下旬まで民主党案をいわゆる「つるし」状態にしておいた。

三つ目は「小児医療緊急推進法案」。現在、医療体制の偏在は産科、小児科にあるのはだれの目にも明らかだからだ。

産経新聞出身

塩見 戎三

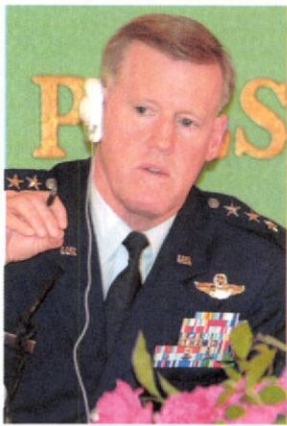
ブルース・ライト 在日米軍司令官

5・24(水)昼食会 司会 島田洋一理事 宮田謙一委員 通訳 小松達也 森岡幹子 出席 118人

▼自衛隊との一体化を強調

自信に満ちた表情と語り口は、厳しい環境の中で生きてきた他の軍人たちと共通する。過去、在沖米軍のトップにあたる四軍調整官(海兵隊中将)や米海兵隊総司令官(大将)を取材する機会に恵まれたが、いずれも自らの組織の素晴らしさをアピールし、東アジアでの平和と安定に貢献している、と胸を張る。

この日は在日米軍のトランスフォーメーションが日米政府間で合意した直後だっただけに、発言が注目された。ライト氏が強調したのは「自衛隊との密接なパートナーシップの構築」。自衛隊との協調は在日米軍を効率的に運用する上で、避けられない長年の課題だった。情報の共有、共同訓練の強化が図られることは、



望ましい結論が導き出されたということだろう。

ライト氏は、再編で周辺住民の負担軽減につながることも指摘したが、沖縄の県民からはどう映るか。

日米合意への評価は一樣ではないが、先の2プラス2で日米の閣僚が浮かべた晴れがましい表情とは距離があるというのが事実だろう。

懸案の普天間飛行場は県内移設。嘉手納飛行場から南の施設返還は普天間移設の可否が左右する。ほとんどはSACOで返還が合意されていた施設であり、条件が付いたことではかえって返還への道のりが遠のく、との見方もできる。

さらに、ライト氏が評価する自衛隊との一体化も懸念材料である。県内で陸上自衛隊が米軍の訓練研修を受けていることが明らかになり、年内から共同訓練も可能になった。

仮に今後、在沖海兵隊のプレゼンスが減った場合でも、その穴を自衛隊が埋める形となれば、県民が求める真の意味での負担軽減とは程遠い結果になるだろう。

沖縄タイムス東京支社編集部長

石川 達也

藤原 正彦 お茶の水女子大学教授

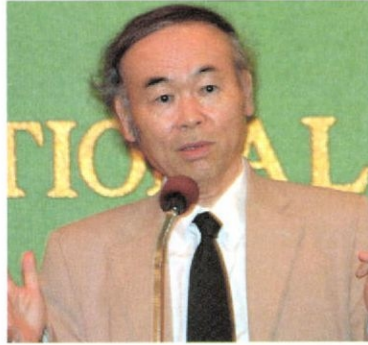
5・24(水) 総会記念講演会
司会 滝鼻卓雄理事長 出席 256人

▼大逆襲に立つサムライ

ミリオンスラー「国家の品格」を引つ提げて論壇に殴り込みをかけた藤原正彦・お茶の水女子大学教授がマスコミ総本山に初見参した。たまたまエレベーターに乗り合わせた、この今を時めくサムライは、と見ると長身・瘦躯にアタッシェケースをびしりと決めて、いかにもヤリ手ビジネスマンふう。声高な「日本主義」の主は根っからの「日本的」風貌のはず、という勝手な思いこみのはずれた私は、満員の同輩たちとともに正調・藤原ブシに浸ることになった。

クラブ総会記念講演会

の論壇に立った藤原氏はまず、「このところ忙しすぎて、考えるヒマがなく、バカになり、品格もなくなりそう」と笑わせた。スピーチの冒頭、自己憐憫のスパイスを効かせ、会場を和ませるアメリカン・スタイルである。が、本筋に入ると、お馴染みの日本調がほとばしり出た。



〈この国は改革に次ぐ改革で、よくぞ日本の国柄を壊してくれた。改革は改善ではない〉

〈強力な官僚の指導が必要。官から民へ、と言うが、市場原理など、とんでもない〉

〈会社は株主のものはおかしい。経営者と従業員のものだ〉

〈ものあわれを尊び、虫の音に音楽を聴く日本人の美的感受性は世界に冠たるもの。捨ててはならぬ〉

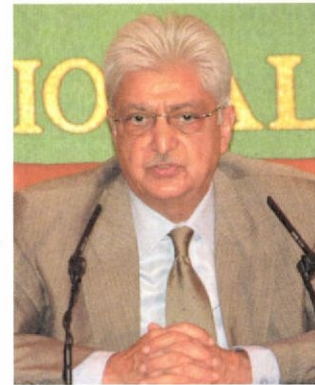
藤原語録の要は、グローバル化という名のアメリカ化の激流に「日本の美風」を失いがちな現状への、重い叱責であり、

一連の政府の構造改革路線への、孤高の大逆襲であろう。その主張が国際派の数学者の口から出たこと、それに数百万の読者が熱く応えたことを見ると、「日本のアイデンティティ危機」は根深いのではないか。あらためて、そうしたことを考えさせる藤原氏の熱弁であった。

中日新聞社相談役 吉村 信亮

アジム・プレムジ ウィプロ会長

5・26(金) 記者会見 司会 広瀬和彦
委員 通訳 森岡幹子 出席 33人



▼インド経済の象徴的存在

「過去25年は大きな変化の連続でした。この先の25年は想像すべからぬ」。IT大国インドを代表するソフトウェア企業のトップとして、この言葉は本心だろう。

米スタンフォード大を卒業後、父親の急逝を受け調理用植物油を扱う企業に過ぎなかつたウィプロ代表に若干21歳で就任。その後ソフト開発分野への進出を決め、わずか四半世紀で同社を世界トップレベルのIT企業に押し上げた。

現首相のマンモハン・シン財務相が91年から主導したインド経済自由化の波に乗り、「オフショア開発」と呼ばれるインド国内で海外企業のソフト開発を受託するビジネスモデルで急成長。インド経済発展の象徴的存在となった。

そのウィプロが今、日本市場開拓に本腰を入れている。現地法人を98年に設立。以来、システム導入や製造業向けソフト開発などでシェアを拡大し、05年には日本市場向け売上高が6000万ドルを突破した。

昨年は「ミスター円」の異名を取った元大蔵省財務官の榎原英資氏を顧問に迎え入れるなど、メディアの注目度も増す。

ただ、現状に満足はできない。全社売上げに占める日本の割合は約5%。ITサービスマーケット規模で世界2位の日本で、その割合は決して高くない。「米国と比べ企業トップのITへの理解が低い」。日本の企業文化にそう苦言を呈する場面もあつた。

トップダウンで物事が決まる米国と、多くの交渉が求められる日本。急激な右肩上がりがあったり前の同社のビジネスでは決まっていたが、信頼に足る技術力を備えた同社がいずれ、日米欧のIT市場で手のつけられない存在になるのは間違いない。

フジサンケイビジネスアイ経済産業部 黒川 信雄

手嶋 龍一 元NHKワシントン支局長

5・26(金)「著者と語る」⑬
司会 小孫茂委員 出席 75人

▼検証不能な真実に挑む「作家」

何でこんなことまで知っているのだろうかと思わせる、神秘的な雰囲気漂わす記者がいる。手嶋さんはそのひとりだった。話題の書『ウルトラ・ダラー』にも神秘性があふれている。これが本当に小説なのか、よくわからない。作家が読者が戸惑うのを楽しんでいる。それが行間ににじむ。



話しぶりもそうだった。一通りの話を終えたところで司会者が「小説と同じで、どこまでがフィクションでどこまでがノンフィクションかわからなかった」と感想を語ったが、会場の多くの人々が同じ思いだったろう。「ここはフィクションと思うところは本当でしょう。本当と思うところは加工されている」

てしまったからだ。

スパイ小説だから内容の説明は避けるが、登場する外務省アジア大洋州局長が実在の人物を連想させるとされる。この点を聞かれて「お名前を挙げられたひとは大変魅力的な人物。全然似ていない」とかわした。三省堂書店でフィクションではなく、ノンフィクション部門の第2位になっていたのを見て「うなだれた」といい、「何年かするとそうなるかもしれない」とも。

記者が取材に基づいて暴露したニユースは、関係者が認め、いわば他者による検証が可能になって初めて真実とされ、歴史に残る。が、半永久的に確認ができず、実は真実であっても検証不能のままの情報もあろう。だからウルトラ・ダラーは小説の形をとったのだろう。

NHK時代はスーツをきっちり着込み、ワシントンのパワーエリート然としていたが、クラブに現れた時はアスコットタイを巻き、髪も少し前に垂らして自由人風。作家・手嶋龍一を見た思いがした。

日本経済新聞論説副主幹兼編集委員
伊奈 久喜

プラナーブ・ムカジー インド国防相

5・26(金) 記者会見 司会 春名幹男委員
通訳 小松達也 池内尚郎 出席 54人



▼21世紀の大国へしたたかな戦略

日本が中国への対抗勢力としてインド重視の姿勢を強める中、インドのムカジー国防相が訪日した。商業相や外相を歴任し、おとしのマンモハン・シン政権の発足以来、国防相を務める実力者だ。去年4月の小泉首相のインド訪問の際、両国は安全保障対話・協力の拡充など、グロ

バル・パートナーシップ強化のための8項目の行動計画に合意した。今回の訪日はこの計画の二環である。そのムカジー国防相が記者会見で強調したのが、アジアの安全保障をめぐる環境が同時多発テロ以来大きく変わり、マラッカ海峡を含むインド洋のシーレーンの安全の強化など、日印両国の戦略的な協力の必要

性が高まっているということだった。

また3月にアメリカと結んだ原子力協定について、核保有国として世界的に認められたかどうかはわからないが、急速な経済成長に伴うエネルギー需要に対応するものだと強調し、協定がアメリカ議会でも批准されるよう強い期待を表明した。

また大量破壊兵器の拡散防止については、インドはNPTの加盟国ではないが、その規定のほとんどを自発的に守っていると強調し、地域の脅威に対応するため、「最小限の信頼できる抑止力」を必要としていると述べた。

ムカジー国防相は中国との関係については、両国が抱える問題は武力ではなく、対話によって解決されるべきだとの考えを示し、上海協力機構への正式加盟や中口の合同軍事演習への参加の可能性についても慎重な姿勢を示した。インドは日本との関係を強化するとともに、かつて戦火を交えた中国とも関係を改善しつつあり、会見では21世紀の大国として影響力を高めようとするしたたかな戦略が感じられた。

NHK解説主幹 山内 聡彦

河野 太郎 衆院議員
斉藤 鉄夫 衆院議員

▼二つの改正案が示す悩ましさ

臓器移植が進まないのは、臓器移植法が厳しすぎるからか。与党から二つの改正案が今国会に提出された。

自民党の河野太郎衆院議員は、「脳死移植を受けられないから、生体からの移植が増える。子どもが募金を得て海外へ移植を受けに行く。中国で死刑囚の臓器を移植してもらおう。こんな現状を放置することはもう許されない」との現状認識を示したうえで、改正案Aを説明した。

現行法では本人の意思が書面で示されることが条件だが、本人が拒否しない限り、家族の意向で提供できるようにする。「立法府として、部屋の鍵を開けたい」と述べた。

公明党の斉藤鉄夫衆院議員のB案は、本人意思を前提とする原則はそのままに、提供できる年齢の下限を15歳から12歳に下げる。斉藤氏は、



河野議員



斉藤議員

5・29(月)研究会「臓器移植法改正」
司会 柴田鉄治委員 出席 51人

「河野氏が2年前に立ち上げた与党検討会に参加し、脳死移植に対して、あまりに大きい異論が専門家の間にあることを知った。とりわけ小児科の専門家は慎重だ。一律に脳死を死とし、本人意思の前提を変えるのは時期尚早だと思うに至った」と異なる案をまとめたいきさつを述べた。

しかし、自ら父の洋平氏に肝臓を提供した経験を持つ河野氏は、「死に直面する人がいる。これでは問題は解決しない」ときっぱり。

斉藤氏も、「改正案で乳幼児の問題は解決しないといわれたら、その通り」と、自ら認める「苦しい答弁」。しかし、日本人の死生観も考えれば、啓蒙しながら一歩ずつ進めていくしかないとの立場を強調した。

だれもが命は救いたい。が、同じ検討会でも全く違う答えが出る。この問題の悩ましさがあったため浮き彫りになった。

朝日新聞論説委員 辻 篤子

スリランカ和平支援会議共同会見

▼紛争当事者への強いメッセージ

スリランカ政府と反政府武装勢力「タミル・イーラム解放のトラ」(LTTE)の戦闘が激化している。

4月以降、計200人以上が死亡、2002年の無期限停戦協定は崩壊の危機にある。こうした状況の中で5月30日、スリランカ和平を支援する日本、米国、欧州連合(EU)、ノルウェーの四者会合が東京で開かれ、各代表が記者会見した。



スリランカ和平支援会議共同会見の様子。左から右へ、スリランカ代表、米国代表、EU代表、ノルウェー代表。

資金援助を考える」と表明したものの、戦闘が激化している現状を踏まえ、具体的な増額規模は示さなかった。四者の代表は、和平実現をなし得るのはスリランカ人自身であり、スリランカ政府とLTTEの両当事者だと強調。特にLTTEに対しては「(テロなどの)暴力行為を即座に放棄すべき」との強いメッセージを発した。

「02年以降、スリランカ情勢は最悪の状態」(明石康・日本政府代表)「全面的な戦争の恐れがある」(ソールハイム・ノルウェー国際開発相)と、各代表は厳しい現状認識を示した。明石代表は、03年のスリランカ復興開発東京会議で決めた4年間で45億ドル超の支援について「これまで約34億ドルが使われた。双方が平和の道を尊重するなら、さらに応分の

折しもこの日、EUがLTTEの域内資産凍結を決定。EUを代表する立場にあるオランダのファンダイク駐スリランカ大使は、決定は正式なものではないとした上で「(制裁により)EUがLTTEに影響を及ぼすのは難しい」と述べ、LTTEを早期に和平交渉のテーブルに着かせるのは困難との見通しを示した。共同通信外信部 砂田 浩孝

5・30(火) 通訳 澄田美都子
宇尾真理子 出席 60人

グレン・フクシマ エアバス・シヤパン社長

5・31(水) シリーズ企画「在日外国人のみた小泉政権5年」① 司会 春名 幹男委員 通訳 小松達也 出席 95人

▼「異常なほどの対米依存」を懸念



知日派 という表 現に「熟」という字 をかぶせて「熟知日派」と

呼びたくなるほどの、この講師が「小泉政権5年」の変化全般について、否定的ないしは懐疑的な評価をくだした。それがこの会見のすべてであった。「構造改革路線」の実績について、全体として高い評価は与えられないといったのはその一例である。

もっとも、フクシマ氏の発言のほとんどは、そうした国内面への評価よりは、「対米」を含む日本の対外関係の停滞あるいは悪化を憂慮することにあてられた。

「小泉＝ブッシュの関係は良好かもしれないが、日米関係全般は必ずしもそう言えない」「イラクへの陸上自衛隊派遣は湾岸戦争時の対日非難以来のトラウマを回避したかったためのものだろうが、私の見方では過剰反応であり、日本は別の方法で

の貢献が考えられたのではないか」「中国、韓国など近隣諸国との関係悪化は、日本の孤立を加速するといふ意味で外交に戦略性が欠落しすぎている」などの指摘が相次いだ。

フクシマ氏は、自身が昨年から欧州系企業の社長に就任したこともあって、日本をいわば外部から第三者の眼で観察するようになった、と言う。その立場で考えると、日米関係の「異常なほどの親密さ」に注目するといふ。そして、これほど強い結びつきと心理的依存感、明らかに多様化する外的環境への不応とアジアの中での孤立―落伍の危険をはらんでいる、と警告する。

この論理構造は現実に沿っている、と私は考える。それに沿っていると孤立への懸念と過度の対米親密化に伴うリスク回避の困難さが対米「密着」をさらに増幅する。その構造的悪循環を否定するのは難しからう。昨日今日の話ではないかもしれないが、あらためて頭痛のタネになった。フクシマ氏は「異常なほど親密な国」からの肩すかしの危険さえ絶無ではないとも付け加えたのである。

日本経済新聞出身 宮智 宗七

見ている、胸が締めつけられるような悲しみを感じる。

主役の奥村和一さん(81)は昭和19年に徴兵、中国の山西省に派遣される。そこで日本軍は、軍閥の閻錫山が率いる国民党軍や、共産党の指導する八路军と戦ったのだが、敗戦後、奥村さんたちの部隊は命令で残留して閻錫山軍に編入され、共産党軍と戦う羽目になる。昭和23年に戦闘で重傷を負い、共産党軍の捕虜に。以後6年2カ月にわたって、炭坑での強制労働など各地での抑留生活を送る。

昭和29年にやっと帰国を許されるが、故郷の新潟では、敗戦の翌年に「自願残留」とみなされて軍籍を抹消されていた。おまけに「中共帰り」として公安当局が付け回す。たまたま東京に出て、業界記者をしながら、同じような境遇の元兵士とともに軍籍抹消を不当とし、法に基づく援助を求める訴訟を起すが、これも敗訴。

終戦前には、上官の命令で罪のない中国人を銃剣で



©Ren Universe, Inc.

蟻の兵隊

侵略戦争の愚かさと無意味さ

刺殺したこともあった。のちに訪中して処刑場で犠牲者に祈りをささげ、日本国内で日中友好運動にも協力した。こうした事実を淡々と語る奥村さんの言葉を通じて、これまであまり顧みられなかった残留兵士問題の実体が鮮明に浮かび上がってくる。池谷薫監督によるドキュメンタリー作品。2006年の香港国際映画祭で「人道に関する優秀映画賞」を受賞した。

欲を言えば、山西省の厳しい環境を示す画像が多かったら、さらに良かった。当時の同省奥地では米はほとんど採れず、人々の主食はアワ、トウモロコシ、コウリヤンなど。冬の気温は零下10度以下まで下がり、例

えばぶどうは、冬には蔓を束ねて地中に埋めておかないと寒さで枯死してしまう。こうした状況を具体的に知ることによって、こんな奥地まで攻め込んだ侵略戦争の愚かさ、無意味さがはつきりするはずだ。

朝日新聞出身

田所 竹彦

断片——ロシア有情

河野 健一

1989年春から3年半、毎日新聞モスクワ支局に勤務した。ソ連に赴任して、不条理が大手を振ってまかり通る世界を初めて経験した。日本や前任の西欧では当たり前のルール、常識が全く通用しない。悪い印象が募った。

だが日が経つにつれ、この国の別の顔が少しずつ見えてきた。広大な領土に多くの民族を抱える多様さ。厳しい自然に耐える労働者や農民の素朴な人間性。生活苦の中でも失わない文学や音楽への愛情。圧政と向き合ってきた知識人の思考と精神の奥深さ……。激動の歴史を刻んできた大国ならではの面白さと魅力に目を開かされた。

私の心に残る「ロシア有情」の断片を綴ってみた。

◆極寒の夜に震える——

1989年夏、ソ連の炭鉱労働者

が戦後初めてのストライキに立ち上がった。物不足、低賃金、劣悪な安全対策に抗議しての決起だった。

社会主義の本家で炭鉱労働者が政府に反旗を翻したのだから、大変な事態である。ウクライナにあるソ連最大のドンバス炭田の取材に飛んだ。現地で会った炭鉱労働幹部から「もっとひどい条件下で働いているシベリアの仲間を取材しなさい」と勧められた。

助言に従い、翌90年1月、シベリア中部ケメロボ州のクズバス炭田を訪ねた。中心のプロコピエフスクでは労組と政府代表の団交が開かれていて、初日の取材はうまくいったが、市内にはその夜のホテルがない。当時、外国人が市民の家に泊まるのは許されていない。やむなく、労組の世話で、スポーツセンターに一室だけあるビクター施設に泊まった。そこで予想外の試練に遭った。労

骨まで凍る寒さとはこのことか、

と思った。極寒期だから昼間でも氷点下32度、夜は40度以下になる。室温も外気並みのはずだ。セーターと背広の上にドブリヨンカ（毛皮のコート）を重ね、帽子をかぶり、防寒靴をはいたままベッドに潜り込んだ。それでも震えがとまらない。「ならばセントラル・ヒーティング」と持参のブランデーをおおったが、効果はない。一睡もできなかった。

翌朝、迎えに来た電気技師シェルツォフさんに頼み、暖房のきいた彼の自宅で一休みした。イリーナ夫人が乏しい食材をばたいてスープをつくってくれた。このうえもなくおいしく、ありがたかった。

聞けば夫人は出産を間近に控えているが、物不足で肉も卵も手に入らない。野菜もジャガイモと腐りかけたニンジンしか買えないという。私も3人の子供の父親。妻と胎児の栄

組の人も事前には知らなかったのだが、部屋に入った後、設備の故障で部屋の暖房が全くなりかたに気がついた。連絡を取ろうにも電話はないし、守衛もない。

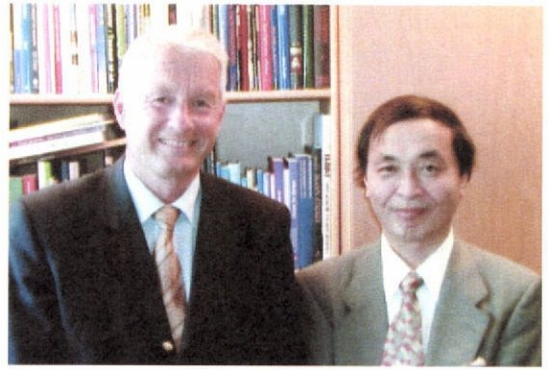
養不足を心配するシェルツォフさんの気持ちは痛いほど分かる。スープのお礼にと持ち合わせのビタミン剤を進呈したら、とても喜んでくれた。極寒のシベリア取材から16年。ロシアは石油、天然ガスの高騰でうるおい、高度成長が続いている。その恩恵はクズバスの炭鉱にも及んでいくのであろうか。インターネットでロシアの新聞を検索しても、確たる情報は無い。

◆村長の奇妙な誘い——

中央アジアのカザフ（現在のカザフスタン）は面積が日本の7倍もある。ロシアとは別の共和国だが、ロシア人も数多く住んでいる。首都アルマータはマルコポーロの東方見聞録にも登場するシルクロードの要衝であった。

カザフは穀物、食肉など農産物が豊富などころだ。ゴルバチョフ政権のお墨付きのもと、いち早く農業改革に着手し、家畜の私有と農地の相続権付き賃貸を法制化した。農業の小規模な民営化の導入である。

国营農場（ソフホーズ）と集団農場（コルホーズ）しか許されなかったソ連で、自営農が本場に育つのか。それを確かめるために91年秋、カザフを訪ねた。



ヤグランド元ノルウェー首相とインタビュー後に
(2004年9月オスロの議員会館で)

アルマータの東80キロ、天山山脈の支脈を望む草原の村に自営農アフレドフさんの牧場があった。国営農場から土地を賃借し、4700頭の羊を飼っていた。「家族が力を合わせ、やっとここまでこぎ着けました。でも、やりがいがある」。馬で羊を追うアフレドフさんに、遊牧の民を祖とするカザフ人の誇りを見た思いがした。

取材後、地区の執行委員長(村長)やタバコ栽培の自営農がアフレドフさん宅に集まり、昼食会を開いてくれた。子羊の丸蒸しという豪華メニューだ。ウオッカの酔いが回った頃、村長が席に連なった村の娘さんたちを見ながら私にささやいた。「今夜、

私の家で気に入った娘と恋をしませんか」。

丁寧に断わったが、村長は本気とも冗談とも取れる口調で続けた。「心配しないで。もし子供ができれば、村で育てます」。

村長の真意は分からなかった。だが、トルコ系で髪の毛が黒いカザフの人々が日本と日本人に親近感を抱いていることは、別の取材で感じられた。なにより嬉しかったのは、アルマータ市内にある日本人墓地の手入れが行き届いていることだった。そこに眠るのはシベリアで抑留され、カザフで強制労働させられている間に亡くなった元日本兵の方々である。身の引き締まる思いで墓に参り、日本とカザフの友好を祈った。

記者魂への共鳴

「ロシアの快男児」。親しみと畏敬を交え、私はアレクサンドル・ポピン氏をそう名付けた。何人もの外国の記者と知り合ったが、彼ほど豪放磊落なスケールが大きく、それでいて繊細な神経と鋭い直感力を持つた人はいなかった。

イズベスチヤ紙評論員としてすでに令名高かった氏と初めて会ったのは、モスクワ赴任直後だった。先輩の江川昌・前支局長(故人)の奔走

で、氏が「ペレストロイカの窓」と題するコラムを毎日新聞に連載する話が決まっていたので、挨拶を兼ね食事をもにした。太った身体と立派な八字髭。いかにもロシア人という印象を受けたが、威張ったところが少しもない。年下の同僚として私に温かく接してくれた。

会う回数を重ねるにつれ、政治・外交から文学や料理に至るまで博覧強記ぶりに驚かされた。発想が自由で、書くものに伸び伸びした面白さがある。複雑な事象を分かりやすい比喩で解いてみせる器用さとロシア風ユーモア感覚も持ち味だった。

ゴルバチョフ改革の擁護者であっても、政権べったりではない。バルトの民族運動に対する武力弾圧を許したトップとしての責任を問うたし、クーデターの半年前には「赤い軍産複合体(氏の表現)が不満を強めている」と警告を発してもいた。私のアパートにも何度か招いた。胃袋もけた外れに大きい人だったので飲物と食事の準備が大変だった。祖国愛では人後に落ちなかったが、ドイツのビールには目がなかった。

次にワインを楽しみ、最後にギンギンに冷やしたウオッカで舌を締めるのと、満足して帰って行ったものだ。親交は氏がソ連解体前の91年11

月、駐イスラエル大使に任じられるまで続いた。92年秋、私が東京に帰任し、暫く接触が絶えた。氏は97年、任期を終えてイズベスチヤに復帰した。その翌年、私がモスクワに出張する機会があり、7年ぶりに再会したのが最後となった。

2004年秋、バルト取材のついでにノルウェーに立ち寄り、ヤグランド元首相らとEU拡大で意見を交わした。オスロ平和研究所も訪ね、そこで会ったロシア人研究者からポーピン氏が半年前に他界したと聞き、暫く言葉を失ってしまった。

プーチン政権下のロシアでは報道機関の締め付けが強まっている。巨体の内に熱い記者魂を燃やしていた氏は、強権政治への逆戻りを憂えながら旅立ったに違いない。

「ポーシヨイ・スパシーバ、ポーピンさん!」。ロシアの大きさと深さを教えてくれた畏友をしのんで、私はオスロで寂しい酒を飲んだ。

この・けんいち会員 1943年
福岡県生まれ 68年毎日新聞入社
東京社会部 ボン特派員 モスクワ
支局長 論説委員 99年から県立長
崎シーボルト大学国際情報学部教授
主な著書に「ユーロ誕生——欧州が
世界を変える」「マスメディアと国
際政治」(共著) など

● 森・一太一騎打ち

ポスト 派閥取材の分水嶺？
小泉

▼ 柿崎 明二
(共同通信社)

ここ数年、自民党の国会議員を取材する中である疑念がふくらみ続けている。「いまの派閥は本当に派閥なのだろうか」。

安倍晋三官房長官が事実上、出馬宣言したことで前哨戦に突入した自民党総裁選が、この疑念に答えを出してくれそうだ。そう感じさせてくれたのは森派会長の森喜朗前首相が、安倍氏、福田康夫元官房長官という同派の「ポスト小泉」有力候補の一本化をしないと表明した5月11日の派閥総会だった。

時間を30分早めて始まった森氏のあいさつの主題は「一本化せず」だったのだが、かねてより総裁選に向けて活動の自重を促す指示を無視、「安倍支持」を公言し続ける山本一太参院議員への非難に時間の半分が割かれた末に驚くべき一言が飛び出した。「きょうは（山本一太参院議員に）レッドカードを出した。それでみんな文句があるなら俺をクビに

してくれたい。喜んで（会長を）辞めましょう」。

森氏のあいさつの間、信念を誇示するように見詰め返し、話の内容によつては首を振って「否定」のしぐさを見せる山本氏の姿に、憤激を抑えられなくなった揚げ句の「自分か、山本か」の二者択一。森氏もさすがにまずいと思ったのか「ただ山本なんかと相打ちになる気持ちは私はないけど」と付け加えた。

森氏は「最後の派閥らしい派閥」とされる森派の領袖。その森氏が二者択一の相手とした山本氏はマスコミ露出で一定の知名度はあるもののかつてなら「陣笠」と言われかねない若手。派閥全盛時ならあり得ない、あつてはならない「領袖対陣笠」の「一騎打ち」は派閥の現状を如実に表している。

× ×
派閥の衰退、崩壊現象は国民的人気を背景に小泉首相が田中派の系譜

を引く橋本派を打ち破った01年春の総裁選からさかんに指摘され始めたが、その数年前から事態を的確に予見していた人物がいた。

「もう派閥の時代じゃない。早晚、政策や路線を軸に総裁選が戦われる時代がやってくる」。橋本龍太郎首相の退陣を受けた98年夏の総裁選に橋本派の前身である小淵派を手勢わずか2人で離脱。三塚派代表として出馬した小泉首相を押さえて2位につけた故梶山静六元官房長官は総裁選後、支持グループの派閥化を図ろうとする若手をこう諭した。

梶山氏は竹下派七奉行の筆頭格で常に派閥の中核に位置し続けた実力者。出馬も派内の権力闘争の果てと見られていたことから派閥化を拒む発言は当時、「派閥復帰をスムーズにするための環境整備」と解釈された。しかし、梶山氏は衆院選に小選挙区制度が導入された後の95年の総裁選で「国民的人気の高さ」を理由に橋本氏を担ぎ出している。1000票近い超派閥の支持を集めた自身の経験を待たずまでもなく小選挙区制度で総裁選の基準が変わる必然を確信していたのだろうか。

小選挙区制度の導入や政治資金規正法の強化、小泉首相の派閥の意向無視の人事が派閥の衰退、弱体化を

促すことは論理的帰結と言えるが、派閥幹部と所属議員の意識や行動のズレが顕在化しやすい総裁選以外の場面ではなかなかその変化は見えにくかった。01年総裁選に続き03年総裁選では橋本派分裂などの形で顕在化した。平時に戻ると会長と所属議員が一堂に会して結束を演出する総会の開催など「外形標準」としての派閥が存在するための。

しかし、今回、総裁選の4カ月も前に現総裁と有力後継候補を抱える森派で「領袖・陣笠」の一騎打ちが繰り上げられる事態となっている。総会終了後、会場を出ようとする山本氏を数人の同僚議員が笑顔で肩をたたいて励まし、「レッドカードの次はホワイトカードだから」と茶化す議員まで見られた。

さらにこの日、森氏のあいさつをうなずきながら拝聴していた森派衆院議員が「安倍支持」グループである「再チャレンジ支援議連」の呼びかけ人に名を連ねた。領袖の意向も所属議員の思考、行動にとつてもはや相対的なものでしかない。勢い取材上も両者の価値の差は少なくなる一方だ。総裁選取材、派閥取材の見直しが迫られる所以である。

かきざき・めいじ 1988年入社 94年
から政治部 現在 遊軍

道庁行財政改革

増収策で給与明細にビール広告

▶久保田裕之
(北海道新聞社)

深刻な財政難にあえぎ、都道府県で最大となる職員給与10%カットに踏み切った北海道庁が、財政立て直しのための増収策として、4月から職員給与明細書に企業広告の掲載を始めた。道の歳入不足額1800億円に対し、わずか50万円の増収だが、「ちりも積もれば山となる」の精神で、あの手この手の増収策に躍起になっている。

広告は、道が知事部局の職員約1万9000人に配る給与明細書の裏側に、本年度最初の給与支給日となった4月21日配布分から印刷された(写真)。広告主はキリンビール。道の広告主募集に対して手を挙げた7

社を対象に、総務部長がトップの選考委員会で選んだ。

広告掲載は、道としては初めての試みで、「すべてが手探り」(総務部)の作業でもあった。

まずは価格。慣れぬ分野だけに価格の見当がつかない。広告代理店への照会や新聞広告料金などを参考に、9月までの半年間の月給6回と、ボーナスにあたる期末・勤勉手当1回の計7回で50万円に設定した。

広告の適格性にも苦労した。応募した7社のうち、最高額を提示したのは大手消費者金融会社だった。これには担当者も頭を抱えた。「給与削減が始まる月の明細書としては、あまりにもタイミングが悪すぎる」とし、「今回はご遠慮いただいた」(総務部)。

ほかに大手旅行会社、保険代理業者、道内のマンション販売業者、農産品販売会社などが応募し、結果的に提示額が消費者金融に次いで高い50万円だったキリンビールと旅行会社がくじを引き、キリンに決まった。図柄も個別商品の広告ではなく、道内にある千歳工場の創業31年前を前面に出したイメージ広告だったこともあり、内容も妥当と判断した。

明細書を家に持ち帰ったある課長は「かみさんから『道庁も大変なの

ね』って慰められたよ」と頭をかいな。道民からは「特に異論は出ていない」(人事課)といい、庁内外の受け止めはおおむね平静だ。ただ、道庁周辺の飲食店からは「給与削減が始まった月だけあって客足は鈍かった。ビールを飲みに来ると予想したんだが」との嘆き節も。ビール広告としての効果は大きくなかったようだ。道は本年度後期分の広告主募集を、7月から始める予定だ。

道はまた、5月に発送した自動車税の納税通知書を入れた封筒にも初めて広告を印刷した。発送数は約160万通。応募5社のうち、最低見積価格の105万円を上回った外資系保険会社に決定した。税の書類だけに「意見広告ではない」「道税を滞納している団体ではない」との条件を細かく設けるなど細心の注意



見広告ではない」「道税を滞納している団体ではない」との条件を細かく設けるなど細心の注意

を払った。

道はまた、各地の職員官舎跡地など遊休資産売却も進めている。札幌市中心部にある知事公邸近くの副知事公邸も売却の対象としたほか、道有施設への広告看板設置、施設の命名権を売却するネーミングライツ導入を進めているが、こちらは反応は芳しくないよう。

歳入確保に突き進む道の対応に、職員からは「いずれ本庁舎屋上に企業看板が立つかも」との不安の声も漏れ始めた。

くぼた・ひろゆき 1989年入社 政治 部 東京政治経済部などを経て 05年3月 道 報 道 本 部

一口メモ 北海道の行財政改革

地方交付税減少や道税収入低迷などから、道は今後2カ年で1800億円の歳入不足が生じ、財政再建団体転落が現実味を帯びたとし、05年度から10年間の行財政改革策をまとめた「新たな行財政改革の取り組み」を今年2月に決定した。職員の基本給10%、管理職手当20%、期末・勤勉手当は最大で18%それぞれ削減する給与の独自縮減や、10年間で知事部局の職員の30%にあたる約6000人削減、5年間で3500人相当分の事業の外部委託、165ある関与団体の30%削減などが柱となっている。

貸借対照表

2006年3月31日現在

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1.流動資産		
現金・預金	44,635,910	
未収入金	9,465,418	
立替金	11,550,929	
前払金	11,977,462	
仮払金	242,895	
流動資産合計		77,872,614
2.固定資産		
内装設備	14,511,026	
什器備品	6,782,483	
敷金	32,271,109	
保証金	55,342,000	
退職準備積立預金	249,233,682	
資産準備積立預金	272,383,415	
増加賃料積立預金	121,038,430	
特別積立預金	70,351,472	
クラブ賞積立預金	87,959,443	
固定資産合計		909,873,060
資産合計		987,745,674
II. 負債の部		
1.流動負債		
仮受金	2,901,000	
預り金	0	
未払金	14,397,004	
流動負債合計		17,298,004
2.固定負債		
退職準備積立金	249,233,682	
資産準備積立金	272,383,415	
増加賃料積立金	121,038,430	
特別積立金	70,351,472	
クラブ賞積立金	87,959,443	
固定負債合計		800,966,442
負債合計		818,264,446
III. 正味財産の部		
正味財産		169,481,228
(うち当期正味財産増減額)		(-7,062,723)
負債及び正味財産合計		987,745,674

第68回通常総会

5月24日(水)
クラブ宴会場

日本記者クラブの第68回総会(2006年度通常総会)は、出席法人会員27社(代理出席含む)、委任法人会員108社、計135社の出席をもって成立(定足数74社)、定款23条により、滝鼻卓雄理事長が議長

になり開催された。

2005年度事業報告(前号既報)、同収支決算ならびに繰り越し収支差額処分(別記)を理事会案どおり承認したほか、役員の一部交代(前号既報)を了承した。
収入は予算に比べ約57万円の不足だったが、支出面で約3300万円の残があったので、前期繰越と加えて約6000万の次期繰越収支額となった。

第354回企画委員会

(5・9 宴会場)

新委員の小孫茂・日本経済新聞編集局総務(旧・岡田直敏社長室長)を委員長が紹介した後、今後のゲスト候補や新しい研究会テーマ、見学会の候補などを協議した。シリーズ企画として「在日外国人のみた小泉政権5年」を短期集中で開催することにした。

出席

宇治委員長、宮田(謙)、石井、山田、橋本、中井(康)、脇、小孫、矢島、春名、稲田、菅沼、川戸、井田、角南、和田、鳥居、三好、柴田、藤村の各委員。

第272回会報委員会

(5・15 小会議室)

5月号について意見交換した後、6月号の編集や今後の「リレーエッセー」のテーマなどを協議した。

出席

住田委員長、石田、伊藤、仙石、高橋、豊田、西田、松本の各委員。

第166回施設運営委員会

(5・16 小会議室)

3月、4月のアラスカ売り上げと貸室利用状況を事務局から報告した。

出席

石村委員長、高橋、加藤、阿部、梅田、池浦、中村の各委員。

第345回会員資格委員会

(5・18 小会議室)

6月1日付の会員入退会を審議し、理事会に答申した。

出席

高畑、泉、奥野、藤森、山本、今田の各委員。

2005年度収支計算書

 自 2005年4月1日
 至 2006年3月31日

科 目	予算額	決算額
支出の部		
1. 事業費	(242,611,000)	(230,181,732)
借室維持費	(178,237,000)	(178,087,330)
借室料	102,332,000	102,331,272
共益費	16,640,000	16,639,944
空調・光熱・水	9,265,000	9,116,114
ホール専用利用費	50,000,000	50,000,000
会議費	4,540,000	3,581,079
事業運営費	29,672,000	23,583,538
会報発行費	19,300,000	16,520,528
運営雑費	1,542,000	770,891
通信費	4,500,000	4,002,753
印刷費	3,560,000	3,447,413
交通費	1,260,000	188,200
2. 管理費	(172,116,000)	(168,436,669)
(1) 人件費	(139,644,000)	(139,920,811)
給与	85,716,000	84,441,718
賞与・諸手当	51,928,000	54,382,565
厚生費	2,000,000	1,096,528
(2) その他の管理費	(32,472,000)	(28,515,858)
クラブ管理費	23,124,000	21,150,119
機器備品費	1,500,000	720,642
消耗品費	3,500,000	2,882,510
事務委託費	3,436,000	2,900,532
事務雑費	912,000	862,055
3. 諸引当金への支出	(60,000,000)	(60,000,000)
(1) 退職準備積立預金	30,000,000	30,000,000
(2) 資産準備積立預金	30,000,000	30,000,000
4. 予備費	(17,284,000)	(178,283)
【一般会計支出計】	(492,011,000)	(458,796,684)
5. 特定積立預金への支出	(239,000)	(1,783,657)
(1) 増加賃料積立預金	131,000	134,046
(2) 特別積立預金	23,000	1,626,089
(3) クラブ賞積立預金	85,000	23,522
6. 諸積立金からの支出	(0)	(2,194,500)
(1) クラブ賞積立預金	0	409,500
(2) 資産準備積立預金	0	1,785,000
【特別会計支出計】	(239,000)	(3,978,157)
当期支出合計(C)	492,250,000	462,774,841
当期収支差額(A)-(C)	-40,000,000	-7,302,199
次期繰越収支差額(B)-(C)	27,876,809	60,574,610

科 目	予算額	決算額
収入の部		
1. 会費収入	(378,165,000)	(376,977,500)
(1) プレス会員会費	(319,158,000)	(318,398,900)
法人会員会費	215,872,000	215,563,400
個人A会員会費	27,015,000	26,592,600
個人B会員会費	2,492,000	2,507,900
個人C会員会費	10,526,000	10,506,000
個人D会員会費	63,253,000	63,229,000
(2) 賛助会員会費	(59,007,000)	(58,578,600)
法人賛助会員会費	48,150,000	47,668,500
個人賛助会員会費	4,329,000	4,065,600
特別賛助会員会費	6,528,000	6,844,500
2. 事業収入	(72,733,000)	(73,594,492)
(1) 貸室収入	43,541,000	42,804,626
(2) 飲食売上割戻し収入	22,979,000	24,300,341
(3) 施設機器賃貸収入	6,213,000	6,489,525
3. 雑収入	(1,113,000)	(922,493)
(1) 預金受取利息		
(普通預金、退職、資産準備)	600,000	561,613
(2) 雑収入	513,000	360,880
【一般会計収入計】	(452,011,000)	(451,494,485)
4. 特定預金受取利息	(239,000)	(178,657)
(1) 増加賃料積立預金	131,000	134,046
(2) 特別積立預金	23,000	21,089
(3) クラブ賞積立預金	85,000	23,522
5. 入会金	(0)	(1,605,000)
6. 特定預金取崩収入	(0)	(2,194,500)
(1) クラブ賞積立預金	0	409,500
(2) 資産準備積立預金	0	1,785,000
【特別会計収入計】	(239,000)	(3,978,157)
当期収入合計(A)	452,250,000	455,472,642
前期繰越収支差額	67,876,809	67,876,809
収入合計(B)	520,126,809	523,349,451

次期繰り越し収支差額処分

2005年度決算の結果生じた次期繰り越し収支差額60,574,610円のうち、退職準備積立預金、資産準備積立預金、クラブ賞積立預金にそれぞれ1,000万円積み増し、30,574,610円を次期に繰り越す。



久しぶりの再会を喜ぶ、クラブ賞受賞の磯村尚徳さん(77年度・左)と松山幸雄さん(78年度)

滝鼻理事長(読売・右)と北村前理事長(毎日)



会員懇親会 (06. 5. 24) から



左から三石・信毎、目(さっか)・中国、岡部・神戸、杉江・道新の各支社長



右から国正武重さん(99年度クラブ賞受賞)、会報委員長の住田さん(産経)、阿部穆さん、日本工業社長の熊坂さん

サヨナラ・万里さん 作家の米原万里さん(56)が5月25日、ガンで亡くなった。ロシア語通訳としてお世話になった。ゴルバチョフ、シエワルナゼ、ヤコブレフのほか、ウズベキスタン、キルギスタン、カザフスタン、ウクライナ、アゼルバイジャン、グルジアの大統領会見でも▼最初は90年1月のエリツィン(ソ連最高会議代議員)、最後は01年9月のキリエニコ・ロシア元首相で計39回も。読売文学賞のときには、お祝いの気持ちもこめてゲストに迎えた

新聞協会の専務理事で、クラブの理事だった村上重美さんの葬儀に寄せられたお香典から、夫人の安子さんがクラブ賞へ50万円を寄付されたことは先月報告した。その直後、またありがたいお申し出があった。クラブの理事長を務めていただいた故・新井明元日経社長の夫人・和代さんが4月24日に事務局を訪問。クラブ賞に100万円いただいた。「主人が本当に記者クラブに愛着を持っていましたので、わずかなのですが、お役に立ててください」と。そういえば相談役になってからだだったと思うが、ご夫妻の姿をよく試写会でおみかけした。実は新井明さんからは、日経の

クラブ賞へのご寄付

会長退任時にすでに100万円寄付していただいている。新井家からは2度目のご寄付ということになる。なによりうれしいのは、だんだんのだが、個人の顔の見えるというか、個人に愛着を持ってもらえるようなクラブになってきたこと。新井さんも村上さんも囲碁好きで、よく土曜午後の同好会をたのしんでいたのを思い出す。おかげさまで、クラブ賞基金もこれで約9000万円になった。ことしは残念ながら受賞者なしという結果だったが、なんととしても来年は立派な受賞者を出さないと、お二人にお目玉をもらうことになるかも。(岩崎)

(95・3・7 司会 石川弘修委員)。これ以後、日本のスケールを超えたおおらかさと明晰な批判精神で本格的に創作活動へ▼大きな作物を期待していた人も多かったと思う。残念だけど、いまは感謝を捧げよう。ことしになって、二度ラジオで、偶然、彼女の書評コメントを聞いた。最後に彼女を見たのは、一昨年だったと思うが、新宿の紀伊国屋サザンシアター。「万里さん」と声をかけたら、オペラ歌手みたいな磊落さで「ヤア、生きていた!」。(玄)

リレーエッセー

ミュンヘン五輪③
(1972. 9)

ボンに駐在していたので東京から来た取材班とは現地で合流した。開会(8・26)の数日前にミュンヘンに入り、各会場を下見して回った。IDカードの仕組みが複雑で種類が多く、門衛もよく分かっていないと見えて、入れられないで押し問答することが何回もあった。ゲリラがイスラエル選手団を襲ったと聞いたとき、どうやって入ったのだろうかという思いがふとよぎった。むろん、連中は門から入る必要などなかったのだ。

「『黒い9月』とはどんなグループかって東京が聞いてるぜ」。そういういわれでも、なにぶん初めて出てきた集団、地元ラジオやテレビの話を参考として送ったように思う。

交渉が始まり、ゲリラの最後通告の期限が近づき、そして延期されるたびに一喜一憂しながら日が暮れる。夜が更けてから、エジプトのサダト大統領が人質とゲリラの受け入れに同意したと伝えられた。やがて、ヘリコプターが選手

村から飛び立っていった。生命の保証のない旅立ち、イスラエル選手たちはどんな心境かと胸が痛んだ。

しばらくして、人質全員救出のうわさが広がり、やれやれと思つたのもつかの間、全員死亡が発表された。組織委スポークスマンのハンス・クラインの悲痛な表情がいまも浮かぶ。彼は以前、ミュンヘンの週刊誌のボン駐在員をやっていたことがあり、記者会見などでよく顔を合わせていた。

“悲劇”その後も追う

小林 正文

大会が終わってから悲劇の舞台裏の情報がもれ始め、警察の不手際が次第に明るみに出てきた。飛行場でテロリストのリーダーがボーイング機に移ったところで取り押さえるはずだったが、機内に配置されていた警官がなぜか事前にひきあげてしまったという。

人気のなくなつた宿舎で残務整理をすませてボンに戻って



小林 正文
ボンに戻って

ると、もう秋の総選挙を目指して選挙戦が始まっていた。争点はソ連、東欧との和解をはかるブランド政権の東方外交である。ミュンヘン事件の責任問題などは選挙戦の喧噪の中でかき消されてしまった。

10月末の日曜日の朝、恐れていたことが起こった。ルフトハンザ機が二人のパレスチナ・テロリストによってハイジャックされ、犯人はミュンヘンで生き残つたゲリラ三人の釈放を要求したのである。私はたまたまある議員の選挙運動を取材のため北ドイツの町に出かけており、急いでボンへ引き返したが、政府はあっさりとして三人の釈放に応じていた。3週間後に投票が行われ、与党が大勝した。あれから、30余年、記憶も薄れがちだ。当時、一緒に仕事をした読売の仲間のうち三人は鬼籍に入った。ハンス・クラインはその後、政界に転じ、コール内閣の政府スポークスマンから議会副議長をしていたが、彼も数年前に他界した。今昔の感しきりである。

(当時「読売新聞」特派員)

→18ページ「情報発信」から

■関西学院大学とUNHCR共同会見 難民の推薦入学制度を設置 関西学院大学と国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)駐日事務所が難民を対象とする推薦入学・奨学制度を来年度から導入する協定を結び、その内容について発表した。(5.24 大会議室)
照会先：関西学院大学広報室 Tel：0798-54-6017
■日本科学技術ジャーナリスト会議総会・科学ジャーナリスト賞表彰式 優れた科学報道や出版を顕彰するために新設された「科学ジャーナリスト賞」の表彰式が行われた。第1回大賞はブログを含む連載「理系白書」の報道で活躍する元村有希子毎日新聞科学環境部記者。他の受賞者は大島秀利毎日新聞編集委員、朝日放送アスベスト取材班など。(5.26 10階ホール)

◆将棋の会◆女流棋士との対局 日曜日の「NHK杯戦」の司会を4月から務める中倉宏美初段と、大学を卒業したばかりの野田澤彩乃1級との指導対局が5月13日に行われました。8人が挑戦し、安原幸雄さん(読売OB)が平手で野田澤プロに金星。森田昌芳さん(中日OB)が角落ちで中倉プロに連勝するなど好成績をおさめました。他の勝者は以下の通りです(敬称略)。
<対中倉戦>飛車落ち 林茂雄(中日OB)池上雅己(会友) 二枚落ち 日比野和幸(朝日OB)

●囲碁の会○ 5月27日。参加20人。優秀賞は柴田鉄治(4連勝)、庭野静雄、石川基、後藤光祥(3連勝)、中野正彦、牧野賢治(3勝1敗)の皆さん。中でも石川さんは3回連続での全勝、通算で9連勝の快挙を達成。

新しいOB会員

情報発信

クラブ施設では会員による各種の
会合が行われています。

■農政ジャーナリストの会総会・農業ジャーナリスト賞
表彰式 第21回の受賞者は森林、里山の荒廃に警鐘を鳴
らした北日本新聞の連載企画「沈黙の森」と、食品の遺
伝子組み換え問題を生産者の視点でとらえた札幌テレビ
放送の「大地の選択～遺伝子組み換え論争～」に贈られ
た。中村靖彦東京農大客員教授（NHK出身）がBSE
をテーマに記念講演した。（5. 10 宴会場）

■ことしもまた、新たな縁を結ぶ会06！ 元朝日新聞
論説委員の大熊由紀子さんを囲んでの交流会。堂本暁子
千葉県知事、辻哲夫厚生労働審議官、中村秀一厚生省社
会・援護局長なども出席。「自立支援って？」「ほんとう
の医療改革って？」のテーマでシンポジウムも行われた。
（5. 13 10階ホール）

■マリコ・テラサキ・ミラーさんの叙勲を祝う会 柳田
邦男氏作品とNHKドラマ「マリコ」で話題になったマ
リコ・テラサキ・ミラーさんが旭日中綬章を受章した。
日米協会会長の大河原良雄元駐米大使や三木睦子さん、
國弘正雄元参院議員らが発起人となり祝賀会が行われ
た。マリコさんは現在73歳、在キャスパー名誉総領事と
して活躍している。（5. 16 アラスカ）

■核不拡散科学技術国際フォーラム・レセプション

日本原子力研究開発機構が主催。ハイノネンIAEA事
務局次長、ジェリー・ポール米国エネルギー省副長官、秋
元勇巳日本原子力文化振興財団理事長などのパネリスト
と内外の原子力関係者が懇談した。（5. 18 アラスカ）

照会先：日本原子力研究開発機構

Tel：029-284-3490 <http://www.jaea.go.jp/>

→前ページ下段へ

バー、レストラン、宴会

予約電話 和食3503-2723 洋食3503-2766

吉富
カクテル

6月：へび太郎

6番目の干支、巳をモチーフにしたオリジナル・カクテルです。ドライジンにミントを入れた、さわやかな初夏の味です。お試しください。



和食

鱧懷石コース（6月30日まで）

先付けから食事まで、鱧一色の料理をこしにも用意しました。冷酒つきで5250円です。

(板長：薬科浩)

先付：鱧、順才、枝豆、長芋 お椀：鱧切り落とし
生もの：鱧、鮎、勘八 焼物：鱧南部焼き 煮物：鱧
紀州煮 揚物：鱧アスパラ巻揚げ 食事：鱧御飯
水菓子：抹茶アイスクリーム

洋食

千倉産アワビのステーキ・コース

(7月28日まで)

このコースを毎年たのしみにしている方も多いかと思いますが、こしはソースを変えてみました。ハーブベースでコクのあるブルギニオン・バターソースです。デザートは独W杯にちなみドイツ風パンケーキを加えました。7月末までの期間限定で6300円です。予約をお願いします。(シェフ：黒須修一)

シェフお勧めオードブルの盛り合わせ コンソメゼリー
とヴィシソワーズスープ 房総千倉港直送アワビのステーキ・ブルギニオン・バターソース 夏トマトの生姜風味サラダ ジャーマンパンケーキと季節のフルーツ・アイスクリームの盛り合わせ パン コーヒー

<訃報>

下記の会員の方々が死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

▼石川英夫会員（時事出身、84歳）が4月1日▼安養寺敏郎会員（日経出身、96歳）が5月9日老衰のため▼米忠一会員（時事出身、74歳）が同22日腎臓がんのため

<会員現況> 法人会員 147社 基本会員 808人
個人会員 1,663人 法人・個人賛助会員 76社 185人
特別賛助会員 74人 名誉・功労会員 10人
計 223社 2,740人

クラブの電話 ダイヤルイン

和食レストラン（9階）	会員事務
3 5 0 3 - 2 7 2 3	3 5 0 3 - 2 7 2 5
洋食レストラン（10階）	経 理
3 5 0 3 - 2 7 6 6	3 5 0 3 - 2 7 2 8
貸室予約、宴会打ち合わせ	
3 5 0 3 - 2 7 2 4	
受 付	会見申し込みアドレス
3 5 0 3 - 2 7 2 1	kaiken@jnpc.or.jp
クラブ行事への申し込み	URLアドレス
3 5 0 3 - 2 7 2 2	http://www.jnpc.or.jp

会報委員会

委員長＝住田良能

委員＝石田昭彦 伊藤三郎 仙石伸也 高橋利行
豊田 幸 西田善夫 松本侑壬子

連絡＝長谷川和子 本庄五月

(電話 03-3503-2752 FAX 03-3503-7271)

取材団の名で朴ハンナラ党代表にお見舞い

ソウルからの報道でショックを受けた方が多いと思います。韓国第1野党ハンナラ党の朴権恵(パク・クンヘ)代表が5月20日、統一地方選の遊説中にソウル市内で暴漢に襲われ右頬に10センチの切り傷、60針も縫う大けがをしました。朴代表にはクラブの訪韓団が2月にソウルでお会いし、3月の訪日時には昼食会ゲストとしてお迎えしました。取材団の名で5月22日にお見舞いのメッセージを送りました。

喫煙室ができました



ラウンジ奥に5月連休明け、喫煙室が完成しました。スタンド椅子が三脚ならんだカウンター形式です。「これで周囲を気にせずホットした」という方もあれば、「タバコの本数を減らすことにしたヨ」とおっしゃる方も。狭いながらも愛煙室。ご活用を。

ベネッセコーポレーションが入会しました

ベネッセコーポレーションが入会しました

6月1日付で(株)ベネッセコーポレーションが法人賛助会員として入会しました。登録会員は森本昌義代表取締役社長兼COOと星久人執行役員(役員室・広報・IR部担当)のお二人です。6月現在、法人賛助会員は76社185人です。

HP <http://www.jnpc.or.jp/>

「会見速記録」：5月の新規掲載

●鈴木修スズキ会長「もの作りの『現場主義』」(2006. 4. 21) ●田中浩一郎エネ研中東研究センター長・畔蒜泰助東京財団リサーチフェロー「イラン核問題－その背景と展望」(2006. 3. 27) ●片山善博鳥取県知事「『三位一体』で遠のいた自治・分権」(2006. 1. 27) ●柳珍山韓国新民党総裁「祖国統一のための六項目提案」(1973. 7. 20)

今後の行事予定（6/5現在）

6. 14 (水) 15:00～16:30 (10階ホール)
「在日外国人のみた小泉政権5年」②
デイビッド・ピリング フィナンシャルタイムズ東京支局長
6. 20 (火) 12:00～14:00 (10階ホール)
福井俊彦日銀総裁昼食会
6. 22 (木) 15:00～16:30 (10階ホール)
「在日外国人のみた小泉政権5年」③
サム・ジェームソンさん
6. 23 (金) 12:00～13:30 (10階ホール)
町田顕 最高裁長官昼食会

行事案内専用電話 03-3503-3764

日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をテーブルでお知らせしています。

写真回廊

撮影 岩田 有 (時事通信本社)
写真部



初の党首討論 (5. 17)

永田町巖流島

歴史的対決といえば、古くは項羽と劉邦、カエサルとポムペイウス……。それじゃ大げさすぎるといわれるなら、宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島の決闘なんか日本的対決シーンの見本でしょう。

小泉純一郎首相と小沢一郎民主党代表の党首討論には期待いたしましたよ。外交なら行き詰まっている日中、日韓関係、米軍再編のツケ回し、石油などの資源確保、内政なら行財政改革や地方分権、少子・高齢化とどう取り組むか。お二人が丁々発止と切り結ぶ姿を拜見できるのでは、とね。

片や福田赳夫、片や田中角栄の流れを汲む方ですから、角福戦争以来の因縁もからむわけで。(古い話ですいません)

ひと言でいえば、巖流島は遠かった。せっかくの対決なのに「教育の責任はどこにあるか」なんて話が長々と続くとは。

いまの子どもや若者を取り巻く問題を改善するには、抽象論や原則論ではなく親の教育力、学校の学習指導力、地域の生活指導力を、短期間に強める方策が喫緊事です。

それを政府や自治体が、具体的にどう支援するかが議論のキモのはず。法律や制度をいじるだけでは片付きませんよ。「日本人の心の荒廃」が、バブル期を経て今日に至る政官業複合体の責任であることもお忘れなく。ま、次回はぜひ真剣勝負を。

(塚田 博康)